

資 料



日本産ササラダニ文献目録 (生態編) II

Bibliography of Ecological Papers on the Oribatid
Mites of Japan (Part II)

原田 洋* ・ 青木 淳一*

Hiroshi HARADA and Jun-ichi AOKI

ササラダニ類の生態に関する文献目録を作成(原田・青木, 1984: *Edaphologia*, 32: 41-48)してから7年の歳月が経過し, その間に多くの業績が集積されたので続報の作成を試みた。また, 前回の目録で欠落していたいくつかを追加し, 一つを訂正した。採録の基準や配列の順序は前回と同様である。

本目録を作成するにあたり, 原稿を通覧し, 欠落している部分を補っていただいた藤川徳子, 藤田正雄, 福山研二, 金子信博, 北沢高司, 小作明則, 栗城源一, 中玉利澄男, 大久保憲秀, 相馬 潔, 高桑正樹, 山本佳範の各氏に厚くお礼申し上げます。なお, 本目録には遺漏も多いと思われる。関係各位のご助言を切にお願いしたい。

文 献 目 録

1. 青木淳一, 1987. 百貨店の屋上に生息するササラダニ類について. 横浜国大環境研紀要, 14: 111-112.
2. 青木淳一, 1988. 都会にすみつく“森”のダニ——都市植生とササラダニ. 採集と飼育, 50: 431-435.
3. 青木淳一, 1989. 土壤動物を指標とした自然の豊かさの評価. 都市化・工業化の動植物影響調査法マニュアル(千葉県): 127-143.
4. 青木淳一・原田 洋, 1985. 環境保全林の形成と土壤動物群集(特にササラダニ群集)の変化. 横浜国大環境研紀要, 12: 125-135.
5. 青木淳一・原田 洋, 1989. 都市生態系に関する土壤生物学的研究(特に環境保全林について). 生命環境の保全と発展のための生態科学および生物工学に関する研究. 昭和63年度教育研究特別経費研究成果報告書(横浜国立大学): 23-28.
6. 青木淳一・原田 洋・岡山利次, 1986. 土壤動物. 長島ダム建設地周辺環境調査報告書(建設省中部地方建設局長島ダム工事事務所): 271-279.
7. 青木淳一・石綿進一, 1991. 都市緑地の土壤動物と水生動物—鎌倉砂押川と東京等々力溪谷での調査. 横浜国大環境研紀要, 17: 107-119.
8. 青木淳一・小作明則, 1984. 動物調査 IV 土壤動物調査. 旧芝離宮恩賜庭園環境調査生物調査(II)報告書(東京瓦斯株式会社): 193-217.
9. 茅根重夫・大村 邁, 1984. 茨城県におけるササラダニ類の分布(山地性種と平地性種). *Edaphologia*, (31): 21-27.
10. 崔 星植(Choi Seong Sik)・青木淳一, 1985. 隣接する落葉広葉樹林とヒノキ人工林のササラダニ群集の変化. 横浜国大環境研紀要, 12: 137-144.
11. Fujikawa, T., 1987a. Biology of *Oribatula sakamorii* Aoki, a dominant species of the oribatid fauna in nature farming field. *Pro. IX Intern. Soil Zool. Collq. (Moscow)*: 544-552.
12. Fujikawa, T., 1987b. Biological features of *Punctoribates insignis* Berlese in a nature farming field. *Edaphologia*, (36): 13-20.
13. Fujikawa, T., 1988a. Biological features of *Oppiella nova* (Oudemans) in a nature farm-

* 横浜国立大学 環境科学研究センター 土壤環境生物学研究室
Department of Soil Zoology, Institute of Environmental Science and Technology, Yokohama National University, 240 Yokohama
(1991年11月30日受領)

- ing field. *Edaphologia*, (38) : 1-10.
14. Fujikawa, T., 1988b. Biology of *Tectocepheus velatus* (Michael) and *T. cuspidentatus* Knülle. *Acarologia*, 29 : 307-315.
 15. Fujikawa, T., 1988c. Fluctuation of oribatid mites in Nayoro nature farming during ten years. *Edaphologia*, (39) : 29-37.
 16. 藤田正雄, 1989. 土壌管理の異なる畑地におけるダニ, トビムシ及びヒメミズ相の比較. *Edaphologia*, (40) : 1-12.
 17. Fujita, M., 1990. Population dynamics of *Oribatula sakamorii* Aoki (Acari:Oribatei) in a field of natural farming. *Edaphologia*, (42) : 31-35.
 18. 藤田正雄・中村好男・藤川徳子, 1987. 土壌動物移入材料としての名寄の林床堆積物中の土壌動物相(重粘性土壌畑の土壌動物による育土. 7). *Edaphologia*, (37) : 9-16.
 19. 福山研二, 1987a. 苫小牧演習林における道路建設が土壌性ササラダニ類に与える影響について. I. 道路建設前のササラダニ類生息状況. 北大農演習林研報, 44 : 773-779.
 20. 福山研二, 1987b. 苫小牧演習林における道路建設が土壌性ササラダニ類に与える影響について. II. 道路建設のための森林伐採が隣接林分のササラダニ類に与える影響. 北大農演習林研報, 44 : 781-787.
 21. 福山研二, 1987c. IX ササラダニ. 齊藤 晋・小池正之(編): 桐生市動物誌(桐生市教育委員会): 243-260.
 22. 福山研二・渡辺隆一・北沢右三, 1985. 月山のササ草原における塩素酸ナトリウム(NaCl₂)散布がササラダニ類におよぼす影響. *Edaphologia*, (33) : 35-39.
 23. 原田 洋, 1988. ササラダニ類の生態分布に関する研究I-本州中部地域を中心として. 横浜国大環境研紀要, 15 : 119-166, 付表.
 24. 原田 洋, 1989. ササラダニ類の生態分布に関する研究II-人為圧との関係について. 横浜国大環境研紀要, 16 : 119-135, 付表.
 25. 原田 洋・青木淳一, 1986. 湘南海岸虹ヶ浜の砂防林試験植栽地のササラダニ群集. 横浜国大環境研紀要, 13 : 207-215.
 26. Ito, M., 1986. An ecological survey on arboreal oribatid mites (Acari:Oribatida) in a subalpine coniferous forest of Shigakogen, Central Japan. *Edaphologia*, (35) : 19-26.
 27. Ito, M., 1987. Occurrence of six oribatid mite species (Acari:Oribatida) in relation to decomposition of dead branches on forest floor. *Edaphologia*, (37) : 1-7.
 28. Ito, M., A. Kosaku and M. Kondoh, 1987. Oribatid fauna (Acari:Oribatida) in several different vegetations of Ishigaki Island, Okinawa, Japan. *Biol. Mag. Okinawa*, 25 : 13-20.
 29. Kaneko, N., 1985. A comparison of oribatid mite communities in two different soil types in a cool temperate forest in Japan. *Pedobiologia*, 28 : 255-264.
 30. Kaneko, N., 1988a. Life history of *Oppiella nova* (Oudemans)(Oribatei) in cool temperate forest soils in Japan. *Acarologia*, 29 : 215-221.
 31. Kaneko, N., 1988b. Feeding habits and cheliceral size of oribatid mites in cool temperate forest soils in Japan. *Rev. Ecol. Biol. Sol*, 25 : 353-363.
 32. 金子信博, 1988c. ササラダニの生活史研究. *Edaphologia*, (39) : 1-9.
 33. Kaneko, N., 1989. Life histories of four oribatid mite species in a mull type soil in a cool temperate forest in Japan. *Pedobiologia*, 33 : 117-126.
 34. 金子信博・片桐成夫・三宅 登, 1990a. ササラダニによるスギ落葉の分解過程. 日林誌, 72 : 158-162.
 35. 金子信博・片桐成夫・三宅 登, 1990b. 島根大学三瓶演習林の土壌動物相. I. 多根スギ人工林のササラダニ相. 山陰地域研究(森林資源), (6) : 189-193.
 36. Kaneko, N. & H. Takeda, 1984. A preliminary study on oribatid mite communities in the cool temperate forest soils developed on a slope. *Bull. Kyoto Univ. Forests*, (56) : 1-10.
 37. 北沢高司, 1986. 北九州地域における破壊された土壌動物群集の回復の機序. 産業医科大学雑誌, 8(特集号) : 19-25.
 38. 北沢右三・新島漢子・福山研二・百済弘胤・北沢高司, 1985. 北海道の針広混交林の土壌動物に関する研究. *Edaphologia*, (33) : 48-58.

39. 小作明則, 1986. 動物調査 III. 土壤動物調査. 特別史跡・特別名勝小石川後楽園環境調査昭和60年度生物調査報告書(東京都下水道局・株式会社後楽園スタヂアム): 305-326.
40. 小作明則, 1987 a. II. 土壤動物調査. 特別史跡・特別名勝小石川後楽園環境調査昭和61年度生物調査報告書(東京都下水道局・株式会社後楽園スタヂアム): 97-107.
41. 小作明則, 1987 b. II. 土壤動物調査. 旧芝離宮恩賜庭園環境調査生物調査(IV)報告書(東京瓦斯株式会社): 125-134.
42. 小作明則, 1988. III. 土壤動物調査. 特別史跡・特別名勝小石川後楽園環境調査昭和62年度生物調査報告書(東京都下水道局・株式会社後楽園スタヂアム): 221-231.
43. 小作明則, 1989. II. 土壤動物調査. 特別史跡・特別名勝小石川後楽園環境調査昭和63年度生物調査報告書(東京都下水道局・株式会社後楽園スタヂアム): 102-112.
44. 久保田 直, 1987. 姫島(福岡県)におけるササラダニ類の群集構造. 生物福岡, (27): 9-16.
45. 栗城源一, 1986. 火山荒原におけるササラダニ数種の生活史について. 東北歯大誌, 13: 207-215.
46. 栗城源一, 1987. ヤマトヌキラン群落のパッチサイズと土壤小形節足動物の密度との関係. 東北歯大誌, 14: 226-230.
47. 栗城源一, 1989. 水田環境下における土壤動物相. 福島生物, (32): 33-34.
48. 栗城源一・吉田勝一, 1986. 土壤動物群集に及ぼす影響. I. 水田における調査. 昭和60年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 69-86.
49. 栗城源一・吉田勝一, 1987. ススキ草地の土壤動物に及ぼす火入れの影響(I)中形土壤動物群集. 日産科学振興財団助成『林野火災の拡大機構とその跡地における生態機構の回復過程に関する研究』研究報告集. 飯泉 茂(編): 林野火災の生態: 301-312.
50. 丸山一郎, 1987. 柏崎海岸風衝草原におけるササラダニの群集構造. 新潟生物教研会誌, (22): 1-10.
51. 丸山一郎, 1988. 土壤動物の生態について一植生が異なると土壤中のササラダニ相はどう変化するか. 東頸城地区理科教育センター・東頸城郡理科教育研究会理科研究集録, (15): 25-34.
52. 松本貞義・葛西善三郎, 1988. 開墾造成樹園地に
おけるミミズ・ダニ・トビムシ類の個体数. 近畿大学環境研報, (16): 295-299.
53. 村上 肇, 1988. 釧路湿原における土壤動物群集の組成. 北海道高等学校教育研究会研究紀要, (25): 221-229.
54. Nakamura, Y., 1989. Oribatids and enchytraeids in ecofarmed and conventionally farmed dryland grainfields of central Japan. *Pedobiologia*, 33: 389-398.
55. 中村好男・板倉寿三郎・松崎 巖, 1991. 福島県から採集された作物病原糸状菌を摂食する中型土壤動物. *Edaphologia*, (45): 49-54.
56. 中玉利澄男, 1985. 沖縄尚学高校構内のスギゴケ類にみられる土壤動物相, 特にササラダニ相について. 沖縄尚学高校紀要, (1): 1-14.
57. 中玉利澄男, 1987 a. 徳之島のいろいろな植生下土壤中のササラダニ群集の種組成. 沖縄尚学高校紀要, (2): 53-66.
58. 中玉利澄男, 1987 b. 硫黄島島のササラダニ類. 沖生教研究会誌, (20): 30-35.
59. 大久保憲秀, 1984. 土壤動物群集に及ぼす影響. II. 畑地における調査. 昭和58年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 119-128.
60. 大久保憲秀, 1985. 土壤動物群集に及ぼす影響. II. 畑地における調査. 昭和59年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 102-119.
61. 大久保憲秀, 1986. 土壤動物群集に及ぼす影響. II. 畑地における調査. 昭和60年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 87-96.
62. 大西 純・福山研二, 1985. 春国岱の土壤動物一主にササラダニについて. 春国岱原生野鳥公園基本計画報告書(財団法人日本野鳥の会): 119-136.
63. 自然農法共同研究グループ, 1987. 重粘性土壤畑の土壤動物による育土一自然農法名寄農場の1976年4月から1986年3月まで. 自給堆肥施用区共同研究報告書, 230pp. 自然農法国際研究開発センター, 熱海.
64. 相馬 潔, 1984. ブナ落枝の腐朽と土壤動物. ブナ材腐朽に関与する微生物の遷移. 昭和58年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書: 45-62.
65. 相馬 潔, 1989. ハイマツ低木林の落葉量とその

分解. II. ハイマツ落葉の分解速度と土壤動物. 豊国秀夫(編): 昭和62・63年度特定研究『ハイマツ及び高山生矮性低木の生長と適応戦略』(信州大学): 7-13.

66. 相馬 潔, 1990. ハイマツ低木林におけるヤマトイレコダニ (*Phthiracarus japonicus* Aoki) の生活史. *Edaphologia*, (43): 25-30.
67. 鈴木恵一, 1984. 環境勾配とササラダニ相-林道とその影響- 多摩川水系流域における蛛形類の分布とその生態学的研究. とうきゅう環境浄化財団助成集報, (56): 130-137.
68. Takahashi, F. K. Yamaguchi, 1986. Resurgence of the soil animals after a forest fire in Japanese red pine forests. *Researches Related to the UNESCO's Man and Biosphere Programme in Japan 1985-1986* (Coordinating Committee on MAB Programme, Tokyo): 26-28.
69. 高桑正樹, 1985. 土壤動物群集に及ぼす影響. III. 林地における調査. 昭和59年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 120-127.
70. 高桑正樹, 1986. 土壤動物群集に及ぼす影響. III. 林地における調査. 昭和60年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 97-103.
71. 梅津實郎・中村好男, 1990. 熟畑化における冬作青刈りすき込み条件. 東北農業研究, 43: 125-126.
72. 渡辺秀明, 1985. 二重多孔板式 Tullgren 装置 (Oribatec OR - 3010) によるササラダニ抽出について. *Edaphologia*, (32): 11-18.
73. 渡邊実佐紀・青木淳一, 1990. 火入れが草地の土壤動物群集に与える影響. 仙石原湿原実験区植生復元事業実験調査報告(第2報): 67-75.
74. 山本佳範, 1988. 神島におけるササラダニ類. 神島の生物. 和歌山県田辺湾神島陸上生物調査報告書(和歌山県田辺市教育委員会): 53-63.
75. 吉田勝一, 1985. 山形県肘折周辺の草地における土壤小形節足動物の生息密度について. 東北歯大誌, 12: 282-284.
76. 吉田勝一・栗城源一, 1984. 土壤動物群集に及ぼす影響. I. 水田における調査. 昭和58年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 101-118.
77. 吉田勝一・栗城源一, 1985. 土壤動物群集に及ぼ

す影響. I. 水田における土壤動物群集. 昭和59年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 90-101.

[補 遺]

1. 北沢右三, 1979. 多摩川流域における動物群集の動態. 『環境科学』研究報告集 B29-R12-2 『多摩川およびその流域の生態系動態に及ぼす人間活動の影響第2号』: 120-128.
2. 北沢右三, 1981. 多摩川流域の陸上動物群集に及ぼす人間活動の影響. 『環境科学』研究報告集 B74-R12-4 : 133-145.
3. 北沢右三・岸 由二・渡辺隆一・高井康雄・梁 昌述・福山研二, 1974. 農業と土壤動物相の相互作用. 高井康雄(編): 合成薬剤による土壤生態系の不調とその保全に関する研究-昭和48年度報告- 文部省特定研究『人間の生存にかかわる自然環境に関する基礎的研究』: 24-36.
4. 北沢右三・北沢高司, 1976. 地域の土壤動物特性とその把握. 地域環境特性の把握と評価方法の開発に関する研究-房総プロジェクト-報告書(日本情報開発協会産業・エコロジー特別研究開発部): 102-155.
5. 北沢右三・北沢高司, 1977a. 土壤動物からみた環境特性とその把握. 地域環境特性の把握と評価. 方法の開発に関する研究-房総プロジェクト-報告書(産業研究所): 232-289.
6. 北沢右三・北沢高司, 1977b. 農業および堆肥の投与と土壤動物の変化. 高井康雄(編): 土壤生態系の化学的環境負荷の評価とその改善・制御に関する研究 -昭和51年度報告- 文部省特定研究『人間の生存にかかわる自然環境に関する基礎的研究』: 21-30.
7. 北沢右三・北沢高司, 1980. 水田生態系の土壤動物群集. 『環境科学』研究報告 B61-R12-9 『農地生態系における人間活動の影響評価総括報告書(昭和52~54年)』: 18-30.
8. 北沢右三・北沢高司・森岡由美子・瀬田 実, 1975. 土壤動物と土壤微生物の分布と生態. 志布志湾地域の生態学的基礎調査(志布志湾臨海部と背後地20Km圏域) 昭和49年度報告書(株式会社地域開発コンサルタンツ): 179-226.
9. 北沢右三・武田 保, 1977. 大岳地熱地帯の土壤動物調査. 地熱発電の自然生態系に与える影響に関する研究(環境庁): 149-205.

10. 北沢右三・武田 保, 1978. 大岳地熱地帯の土壤動物調査. 地熱発電の自然生態系に与える影響に関する研究(環境庁): 161-216.
11. 大久保憲秀, 1982. 土壤動物群集に及ぼす影響. III. 畑地における調査. 昭和56年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 121-133.
12. 大久保憲秀, 1983. 土壤動物群集に及ぼす影響. II. 畑地における調査. 昭和57年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 98-106.
13. 吉田勝一・栗城源一, 1982. 土壤動物群集に及ぼす影響. II. 水田における土壤動物群集. 昭和56年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 83-121.
14. 吉田勝一・栗城源一, 1983. 土壤動物群集に及ぼす影響. I. 水田における土壤動物群集. 昭和57年度環境庁委託業務結果報告書『土壤生物活性に関する調査研究』: 85-97.

[訂正]

Edaphologia, 32号の『日本産ササラダニ文献目録(生態編)』のうち46の文献の著者名を『土壤動物研究会事務局』に訂正する。訂正理由は *Edaphologia* 6号, 34頁を参照。